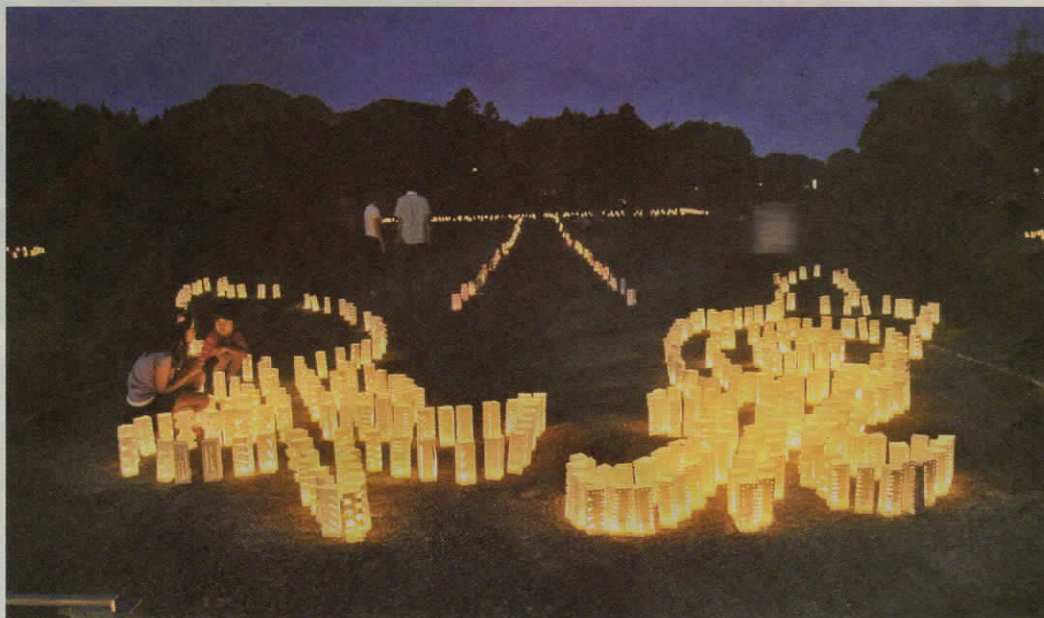


世界遺産のまち

2011年6月に「平泉の文化遺産」が国連教育科学文化機関(ユネスコ)世界遺産登録されて以来、平泉町は観光客の入り込み数が登録前に比べて大きく伸びるなど活気づいている。一方で一過性のものに終わらせず活性化につなげる方策はまだ具体化していない

自主活動で魅力づくり
 が、町民レベルでは登録前からさまざまな角度からまちおこしの取り組みが行われてきた。その中から菜種、夢灯り、ライスアートをキーワードに町内の自主的な活動を紹介します、世界遺産登録後のまちの在り方などを探る。

宵闇迫る古都の旧盆にくっきりと浮かび上がる「平泉」の夢灯り
 =平泉町の旧観自在王院庭園



門家集団・GSデザイン会議(東京都文京区)の事業費補助と主導で町民総参加型のまちづくりが始まったが、ワークショップを重ねるごとに町民がリードする形に変わり、最終的に「平泉まちづくり会(小野寺郁夫代表)」を設立。平泉夢灯りの会も参加する形で、8月16日に町民の手づくりイベント「夢灯り十」を行

◆総参加の手づくり事業—夢灯り

女性パワーで成功

政に頼らず成功させた。特に平泉女性の会や同町地域婦人団体協議会の会員らの活動は目覚しく、約1500個の夢灯りを作り、成功の大きな原動力となった。

小野寺代表は「全くの無から有を生むことは不可能。(成功は)平泉夢灯りた升沢代表は「夢灯りはま

の会の長年の活動の蓄積とちづくりの手段。関西では西洋風のアートな夢灯りで若者も巻き込み地域を盛り上げている。常に新たな血を入れなければ進歩はな地区や東北大、盛岡大、す

「古都の旧盆を彩るほのかな灯り」。同町では、2001年ごろから地域の婦人会を中心に夢灯りの活動がスタート。その後、平泉夢灯りの会(升沢博子代表)を立ち上げて現在に至っている。

一方で、09年5月に風景や景観に関する多分野の専

ぎのクラブ、わくわくマイルドランドも参加。毛越寺付近から中尊寺の月見坂前までの沿道などを約3000個の柔らかな光で照らした。

11年9月に大津市で開か

町民の手づくりイベントを成功させようと約1500個の夢灯りを作った平泉女性の会や町地域婦人団体協議会の会員



「平泉」に「人」と「和」あり